

令和5年度 全国学力・学習状況調査について

(本調査は、全国悉皆調査で第6学年児童を対象に4月に実施されたもの)

1 学力調査に関する結果の概要

【国語】

- 目的や意図を明確に話し合い、自分の考えを広げたりまとめたりする力が身に付いている。
- 原因と結果など情報と情報との関係について考える力が身に付いている。
- 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることに課題が見られる。

【算数】

- 式と場面とを関連付けて読み取る力が身に付いている。
- グラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて説明する力が身に付いている。
- 日常の具体的な場面で知識技能を活用することに課題が見られる。

2 児童質問紙に関する結果の概要

- 自分で目標(志)を立てて、その達成に向けて努力する力が身に付いている。
- 地域との関わりの中で、地域や社会をよりよくするために考えることができている。
- 自分の考えが伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫することに課題が見られる。

3 取組についての評価

(1) 教科に関する取組

① 効果があった取組

- ・算数科の重点単元における少人数指導の実施
- ・国語と算数の基礎的な力を身に付けるためのみなかぜ寺小屋(1～4年生対象・保護者による丸つけ)やみなかぜ塾(4～6年生対象・低学年担任や担外による丸つけと指導)を活用した補充学習の実施

② 今後の学力向上に向けた取組

- ・助詞を正しく使ったり、条件を踏まえたりして書いたり話したりする問題の工夫や場の設定
- ・必要な情報を取り出したり、イメージ図に表したりして内容を捉える学習展開の工夫
- ・ミライシード等のICTを活用した個別最適化学習

(2) 児童質問紙の内容に関する取組

① 効果があった取組

- ・児童が毎週の志や行事の志を立て、保護者から賞賛してもらう志ノートの実施
- ・地域の人や活動に関わる映像の放映、教科学習や行事での地域との関わり

② 今後の学力向上に向けた取組

- ・自分の考えをつくったり再構成したりする時間の設定
- ・表現や交流活動を位置付けた授業づくり
- ・目的を明確にして考えを伝え合う学習活動の設定